

新設学科で専門性高める

高校再編 西条に4月開校の2校



県教育委員会の県立学校振興計画に基づき、西条市の小松、丹原、東予の3高校が再編し、4月に開校した小松高（同市小松町新屋敷）と東予総合高（同市周布）。両校の1期生は、新設された学科で専門的な学びを深めている。愛媛新聞「真相追求 みんなの特報班」（通称・みんな特）が、新たな歴史を刻み始めた両校の授業をのぞいた。

119人が入学した小松高で最も注目を集めるのは、高度な情報通信技術を学ぶ県立高初の情報科学科だ。専攻の生徒33人は週7

時間の専門授業で、プログラミングやデータ処理などの基礎能力を磨く。7月23日は夏休み期間中のセミナーで、ドローンの操作体験があり、生徒は離陸や着陸、飛行時間を制御するコードを作成し、飛行の仕組みや制御方法を学習した。教室中央の机をゴール地点に見立て、ドローンを着陸させるゲームにも挑戦。「7秒の飛行時間だとゴールを通り過ぎる」「エアコンの風も影響する」。生徒は知恵を絞って成功すると拍手し、失敗しても笑い合ひ楽しみながら取り組んだ。



生から「情報探究コース」「情報クリエイティブコース」に分かれ、より専門的な学習を行う。情報探究は、大学や企業と連携した実習活動などを通して、プログラミングの知識を習得。情報クリエイティブは、動画編集やサイト制作、仮想現実（V



「技術、3Dプリンターを活用した実習に取り組む。普通科は「教員養成」「社会共創」「文理探究」の3コース。教員養成は小中学校での教育体験が盛り込まれ、社会共創は地域課題の解決がテーマで、文理探究は大学進学を目指す。東予総合高は総合学科に加え、「アグリデザイン」「機械電気」「建築土木」「ライフデザイン」の四つの専門学科が併設されたのが特徴だ。1期生173人

小松 情報通信技術能力磨く
東予総合 専攻超えて多様な学習

①ドローンの操作方法を学ぶ小松高の生徒＝7月23日午後、西条市小松町新屋敷②全5学科約170人が一緒になって学ぶ東予総合高の学科横断授業＝7月9日午後、西条市周布

7月9日は全5学科の生徒が集まる週1回の横断型授業があり、2学期から始まる地域実習に向けた準備を進めた。7グループに分かれ、相手に伝わる資料の

は、地域を学びの場とし、地元農家や企業と連携しながら、週8時間それぞれの専門分野を学ぶ。2年生からは、専攻以外の授業を受けることもでき、機械電気科の生徒が農場で野菜栽培を学習するなど学科を超えて、さまざまな体験ができる。

東予総合高の榎垣知美校長は「新しいことへ挑戦する楽しさや、自分のやりたいことを見つめられるわくわく感の詰まった学校」と魅力を語る。学校づくりをゼロベースで進める苦労もあるが「授業や部活動、学校行事を生徒と教職員が一緒につくり上げ

作成方法や対話の技術、情報を見極めるクリティカルシンキング（吟味する思考）などを実践的に学んだ。総合学科の真木亜里紗さん（15）は「アグリ業界に興味を持って入学したが、農業や家庭科を専攻する生徒との交流で視野を広げて将来を考えられる。これから本格的に始まる数々の実習で経験を積みたい」と話す。

作成的方法や対話の技術、情報を見極めるクリティカルシンキング（吟味する思考）などを実践的に学んだ。総合学科の真木亜里紗さん（15）は「アグリ業界に興味を持って入学したが、農業や家庭科を専攻する生徒との交流で視野を広げて将来を考えられる。これから本格的に始まる数々の実習で経験を積みたい」と話す。

「文化を広げていきたい」と期待を込めた。
（伊藤義樹）